

令和3年9月 定例記者会見(報告)

1 日 時 令和3年9月 27 日(月)13時～14時

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、読売新聞、河北新報、米澤新聞、毎日新聞、
置賜日報、SAY、NHK、YBC、YTS

<市>市長、秘書広報課長、教育総務課長、学校教育課長

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 衆議院選挙が間近にありますが、市長は選挙区の2候補のどちらに対し、どのように関わるか決めていますか。
- (2) 学校給食共同調理場の整備に関する補正予算が提出され、センターの整備に向けた取り組みが動き始めました。議会でもさまざまな議論がされていますが、市長が考える学校給食のあるべき姿を教えてください。
- (3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和3年度9月の定例記者会見を始めさせていただきます。初めに市長から発言がございます。

○市長

今月の定例記者会見のご質問は2件でした。

1点目は「衆議院選挙が間近にありますが、市長は選挙区の2候補のどちらに対し、どのように関わるか決めていますか」との質問でございます。

現職の鈴木憲和候補を支持したいと考えております。これまで、代議士の政治活動の中で常に連携してまいりました。また、当時の私は県議会議員でしたが、代議士の1回目の選挙から関わってきました。市長になってからは、代議士の要請に応えることで応援をしてき

ました。国政との関係においても連携し、大変お世話になってきたこともありますから、鈴木憲和現職を支持したいと思います。

2点目は「学校給食共同調理場の整備に関する補正予算が提出され、センターの整備に向けた取り組みが動き始めました。議会でもさまざまな議論がされていますが、市長が考える学校給食のあるべき姿を教えてください」との質問でございます。

就任以来、小中学校の適正配置、適正規模化を進めてまいりました。人口減少、少子化の中で避けては通れない課題でした。適正配置、適正規模の方向性は見えましたが、問題は、統合が進んだ中で給食をどのようにしなければならないか、ということでした。

教育委員会で検討した結果、小学校は自校方式、中学校では共同調理場、いわゆるセンターの整備をするという結論が出ました。行政としても、総合教育を進めるうえで、また、総合行政を進めるうえで、教育委員会の方針について、是とする、と判断しました。

理由としては、どういった方式であろうと、現在の給食よりも良いものにしなければならないという思いがありました。その点を考えた場合、センター方式で十分対応できると判断しました。小学校、中学校でも課題になっている食育については、小中学生に対して食育を推進することも大事ですが、米沢市としても健康長寿日本一を目指していくという観点から、地域の方々に給食の見える化をしなければならない。そう考えた場合に、センター化することで、地域住民の皆さんに関心を持っていただけるのではないかと考えました。

また、食材の地産地消でもあります。米沢で調達できない食材もちろんありますが、地域の皆様と連携を取って、調達できる食材は全て地産地消できるシステムを作らなければならないと考えています。

これらのことを農業振興、また流通・商業振興にもつなげなければならないと考えています。教育委員会とも連携を取りながら、行政としても地産地消の新たな方向性を見出したいと思っております。子どもたちの健全な成長・食育に対応でき、そして、地域経済にとってメリットが生まれるような給食のあり方を構築したいと考えております。

私からは以上であります。

○秘書広報課長

市長からの発言は以上となります。

これ以降の進行につきましては、幹事社にお渡しいたしますので、よろしく願いいたします。

○記者

現時点では、鈴木議員から依頼や、スケジュールが決まっていることはありますか。

○市長

いずれ事務所開きがされるとは思います。そのときに要請があれば対応させていただきますが、今のところ要請はございません。

○記者

現職に対して、市と国をつなげるという点で、どういった期待をされていますか。

○市長

新型コロナ収束と、地域経済活性化のための景気浮揚対策についてお願いしたいと思います。また、米価の問題もあります。農業者の皆さんが意欲を失わないように、米価について国でも取り組んでいただきたいと思います。

○記者

鈴木議員も経験を積んで、色々なことができる立場になってきたかと思いますが、それを踏まえて、他に期待することはありますか。

○市長

置賜にとって、これからの課題が多くあります。米沢市の場合は、SDGsを進めていくうえで、行政全般について SDGsを紐付けていきますので、それに対して国からの支援をお願いしたいと思います。

また、少子化に対して国ではこども庁を検討しておりますが、市としてどのように少子化対策に取り組んでいけるか。市単独では取り組みにくいものもありますから、国が少子化対策をしてもらいたい。

広域行政を進めていくうえで、置賜は定住自立圏指定をいただいておりますから、広域観光、米沢牛の振興、こういったものにも取り組んでいただきたい。

○記者

給食は、中学校はセンター方式とのことですが、小学校の自校方式は継続するということによろしいですか。

○市長

小学校は自校方式、中学校はセンター方式で間違いないです。

○記者

市長としては、方式がどちらになるにせよ、子どもたちのためになるものを作るのが一番ということによろしいでしょうか。

○市長

給食は子どもたちにとって大事なことだと思います。どのような方式であっても、子どもたちのために良い給食、美味しい給食にしたいと思っております。

○記者

最近、視察などで給食を食べられたことはありますか。

○市長

視察は最近ないですが、去年、米沢牛を提供したときは児童の皆さんと一緒に給食をいただきました。美味しかったです。

○記者

鈴木議員とこれまで連携してきた中で、具体的なエピソードを教えてください。

○市長

一番印象に残っているものは、就任時のことです。特別地方交付税の要望があり、代議士の力を借りながら財務省にお願いをしました。

また、病院の医療連携について、国からの支援をお願いしたこともあります。

他には、残念ながら新型コロナで開催できませんでしたが、米沢市が GoTo 商店街事業の指定を受けました。非常に多くの要望があった中で米沢市が選定されたのは、代議士のご尽力もあったかと思います。

○記者

市長は自民党総裁選の投票はもう済みましたか。

○市長

まだです。期限まで考えようと思っています。今後の日本の難しい舵取りを誰がするのか、積極的に課題に取り組む方は誰なのか、という視点で判断したいと思っています。

○記者

東京第一ホテル米沢が今月末で閉業します。市への影響がどうなるか、市長の考えをお聞かせください。

○市長

披露宴会場などの機能を持ったホテルだったので、市としても、都市機能の1つとしても残念です。今後の利用については、何か活用して欲しいという話をしました。どうなるかは分かりませんが、無くなるということは避けてほしいと思います。

○記者

民間企業の施設なので市が介入することは難しいと思いますが、市としてはどのように対応しましたか。

○市長

今後は産業部が担当になるので、何かあれば産業部と連携してください、というお話はさせていただきました。具体的にどうなるか、という報告は受けていませんので、まだ詳細は決まっていないと思います。

○記者

立地的にも機能的にも影響が大きいと思いますが、どういった利活用が望ましいと思いますか。

○市長

一番は、これまでどおりホテル機能が残ってほしいです。

○記者

宿泊だけでなく、レストランなどで市民も使っていると思います。影響は市民にもあると思いますか。

○市長

あると思います。ホテルは米沢にいくつかありますが、市民が気軽に会食できる場所は少ないため、そういった機能を持ったホテルが無くなるのは影響があると思います。

機能的なものとしては、今まであった機能を備えた施設が新たに運営されればありがたいと思います。

○記者

市としてホテル跡を活用するなど、介入する意向はありますか。

○市長

検討の余地はあると思いますが、ホテルの建物を使うという検討はしていません。

○記者

東京第一ホテル米沢が無くなるということは、米沢のどんなことを象徴していると思いますか。

○市長

ホテルが建ってから長い年数が経ち、保守管理が困難だったという話を聞いていました。そこに新型コロナによる宿泊客の減少で経営維持が難しいという判断だったと思います。

新型コロナの影響があったわけですが、これが地域のマイナスイメージにつながってしまうのは怖いと思います。

○記者

次の事業者がまだ見つからないと聞いていますが、どういったことを感じていますか。

○市長

詳細は承知していませんが、契約は相手方があってのことですから、私からの回答は控えさせていただきます。

○記者

オクトーバー・ラン&ウォークが始まりますが、市長は参加しますか。

○市長

参加する予定です。

○記者

市民の健康づくりに大事なイベントの1つだと思いますが、市長の思いはどうでしょうか。

○市長

去年は最優秀自治体になりました。最近、何度か取材を受けて、ランナー向けの雑誌に私の取材が掲載されるようです。取材では、食と運動について、市民の皆様へのお願いも含

めてお話ししました。まずは市長が率先して取り組まなければならないと思います、昨年から参加しています。来月から始まるオクトーバー・ラン&ウォークでも、がんばりたいと思います。

○記者

県1位を目指しますか。

○市長

難しいです。

○記者

学校給食の見える化、という話が出ましたが、具体的にはどういったものを目指していますか。

○市長

児童・生徒の食育も重要ですが、給食センターによって市民の皆様に見ていただく機会ができると思います。そういった意味で、見える化、という言葉を使いました。

○記者

夏ごろから妊婦や受験生のワクチン優先接種が行われてきましたが、効果はどう感じていますか。

○市長

予約受付対応はできていて、10月からは12歳以上の受付が始まります。しかし、これまで何度か申し上げているとおり、ワクチンが供給されないのが課題です。優先接種と同時に、50歳以下の接種も進めなければならないと思います。ワクチン確保は私の一存でどうにかできるものではありませんが、県の調整枠を1枠でも多くもらえるように対応しなければならないと思います。

○記者

予約をしようとしても、すぐに埋まってしまう状態だと思いますが、今後、県にはどう伝えようとお考えですか。

○市長

接種計画に基づいて供給の要望をしていますが、計画どおりに供給されていないのが現状です。県に調整枠として入ってくるワクチンがあるので、そこからの配分をどのくらい増やしてもらえるか模索しております。

○記者

一時期、東京では若者の接種が進まないという話もありましたが、米沢市では50歳以下の接種状況はどうなっていますか。

○市長

最新の接種状況は把握していませんが、予約枠は埋まっています。報告を聞く限りでは、接種自体はスムーズに進んでいるので、今できることはできていると思います。

○記者

冬が近づいてきて、受験生の優先接種も話題になっていますが、何か手立てを考えていますか。

○市長

今のワクチン供給状況では、何か手立てを講じなくとも、すぐに予約が埋まってしまいます。接種計画どおりに供給されるようになれば、接種率を上げるために何か考えなければいけないと思います。いずれにせよ、今は接種計画どおりにワクチンが供給されてほしいです。

○秘書広報課長

これをもちまして令和3年度8月の定例記者会見を終了させていただきます。